

私と京都

～京都の時空間をまるごとデジタルアーカイブする～

立命館大学文学部教授 (公財)京都市景観・まちづくりセンター理事 **矢野 桂司** 氏



地理学を大学で教えているという、国や半島の名前や地域の特産品を暗記する、あの「地理」を教育していると思われる。学問としての地理学は、「どこに何があるか」ではなく、「なぜそこにあるか」を問うもので、地形や気候などの自然と、経済や歴史・文化などの人文の地理学的知識を融合させ、現地調査と地図化という手法を用いて、総合的・俯瞰的にある特定の地域や場所のシステムを記述、説明する学問である。

ちょうど30歳の1992年4月に、立命館大学文学部地理学科へ赴任した。1980年代後半には、紙地図からデジタル地図への技術革新である地理情報システム(GIS)革命が起こり、地理学はGISの基礎・応用を提供し、位置に関して言及された地理空間情報を分析する地理情報科学を先導する。GISは単に地図をコンピュータ上に表示するだけでなく、Googleマップがそうであるように、インターネット上のあらゆる情報を、位置をキーにして紐づけ、検索、可視化、分析、そして共有することを可能にした。

京都に来て、京都に関するあらゆる地理空間情報(古地図、古写真、古典籍、遺跡発掘調査など)をデジタル化して、それらをGISで可視化し、分析・共有するためのプラットフォームづくりを推進した。1998年に設立された立命館大学アート・リサーチセンター(ARC)において、京都の有形・無形文化資源をGIS上に配置するためのプラットフォームとして、平安時代から現在、そして未来までの歴史都市京都の時空間を可視化する巨大なプロジェクト「バーチャル京都」を推進してきた。

当時最先端の3次元都市モデルであったMAPCUBE®をベースに(現在は、国土交通省のPLATEAU)、現在から過去に向けて京都の

時空間を復元した。鴨川や3方の山々、寺社だけでなく、京都の景観の重要な構成要素である京町家に着目した。2008・9年度「京町家まちづくり調査」では、市民ボランティア延べ3千人の協力を得て、京町家の悉皆の外観調査を実施し、47,735件の京町家の外観情報と位置情報を収集した。さらには京都の町並みの時空間的変遷を祇園祭を通してみるデジタルミュージアムの構築を祇園祭鉛保存会などと連携しながら展開し、京都市指定文化財の長江家住宅の建物やそこでの暮らし方をデジタルアーカイブして、その保存・継承に協力している。

自宅から立命館大学への通勤や市内の移動はもっぱら自転車を利用している。日々経路を変えながら移動して、京都の町並みの変遷を写真を撮りながら体感し、その移動軌跡とともにGISにデータベースとして、蓄積している。

京町家等継承ネット会員向けの特別講演にご登壇いただきました

特別講演「多様な地理空間情報を活用した京町家の滅失推定に関する研究より」

既存の調査データをもとに、現地調査を行わずに、ゼンリン住宅地図、建築確認申請データ等、地理空間情報を活用して、京町家の滅失推定を行う方法を提案。

講師: 矢野桂司氏

井上萌来氏(立命館大学大学院文学研究科博士課程前期課程2年)

開催日時: 令和6年6月20日(木)午後1時30分～2時30分

表紙イラスト作者

山口 珠瑛 (やまぐちたまえ)

アトリエ TAM 主催 URL <http://tam-y.com>

絵本作家、イラストレーター。京都生まれ。京都育ち。京都教育大学 特修美術科西洋画卒業。「町家えほん」「福ねこお豆のなるほど京暮らし」発売中。京の暮らしがわかるYouTube動画をつくりました。「ふくまめ京暮らし」で検索してくださいね。

ニュースレター 京まち工房 108

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上
梅津町83番地の1(河原町五条下る東側)ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp HP: <https://kyoto-machisen.jp>



令和6年度賛助会員募集中!

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様			



*センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター 京まち工房 108

おちなトピック ファント改修事例と すまいとまちフェスタ

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター



京町家まちづくりファンド改修助成事業 代々受け継がれてきた京町家のこれから

京町家まちづくりファンドでは、京町家への改修費用の助成事業を通じて、所有者・居住者とともに、京町家をまちづくりの拠点として再生し、次の時代につないでいく取組を行っています。令和4年度に選定した2件は改修工事を経て、いよいよ活用が始まりました。

子どもたちの「育ち」を支援する場として再生させるプロジェクト

リ・プラン京都ラグゼ(中京区)

(外壁、建具修復、室外機の修景)

祖父母、両親から受け継がれたこの京町家は、友禅の反物のショールームとして使われていました。商品を垂らして見せていたという回廊のある格天井の吹き抜けは、外観からは想像できないような大空間です。

所有者が代表を務める社会福祉法人白百合会は、この京町家を中学生の学習支援や子ども食堂を実践する場として活用されます。また、地域の方々に利用していただけるコミュニティカフェを設け、地域の方々に子どもたちを見守ってもらえるような環境づくりを目指していらっしゃいます。令和6年7月27日には竣工式が行われ、当ファンドの大場委員長が出席しました。



リ・プラン京都ラグゼ 外観



回廊のある格天井の吹抜

木屋町から先斗町へ続く路地を含む京町家9戸からなる通り景観修景プロジェクト

旧キンセ酒店と旧39番路地(中京区)

(屋根、外壁、建具修復)

この旧キンセ酒店と旧39番路地は、嘉永5年(1852年)から初代が京都に移り住まれて以降、代々受け継がれてきた明治期の街区をほぼそのままに残す貴重な町家群です。三条から四条の間の木屋町通り沿いは、高瀬川の舟運をはじめ江戸時代から栄えてきた場所で、幕末の歴史の舞台にもなりました。現在はビル群に移り変わり、京町家の姿は数少なくなっています。

この修景プロジェクトは、歴史的建築物と呼ぶにふさわしい町並みの修景と路地の再生の事例となりました。すでに木屋町通沿いの一軒にはフレグランス店が出し、趣のある外観に多くの方が足を止めていらっしゃいます。



旧キンセ酒店と旧39番路地 木屋町通外観



旧39番路地

京町家を未来へつなぐ基金にご協力を

一軒でも多くの京町家を未来に受け継ぐために、京町家まちづくりファンドへ、あなたからのご寄附をお願いします。



景観・まちづくり大学 春季 開催報告

京のまちづくり史連続講座

京都のまちと山紫水明

5/24
開催

- 講師：中嶋節子氏(京都大学大学院人間・環境学研究科 教授)
- 京都が山紫水明の風景美を備えるに至るまでの変遷について、人の暮らしや山へのまなざしを視点に、都市計画や風致に係る制度との関連も併せて解説いただきました。

京都の川

6/28
開催

- 講師：鈴木康久氏(京都産業大学現代社会学部 教授)
- 京都の景観を代表する鴨川を中心に時代の風俗や水運の移り変わりの話をされ、景観や風致とともに経済や健康面の価値について、京都の河川の可能性を展望されました。

京町家再生セミナー

京町家の保全・継承とまちづくり

5/30
開催

- 講師：高田光雄氏(当財団理事長、京都美術工芸大学副学長)
- 京町家は「ひと」や「まち」を緩やかに繋ぎ、京都の生活文化を形づくると同時に、「価値観の共存」を可能にするまちづくりのカギとなる存在であると解説いただきました。

祇園祭と京町家

6/21
開催

- 講師：村上忠喜氏(京都産業大学文化学部京都文化学科教授)
- 宵山が山鉦町界限で成立した経緯や実態を通じてその意味を考え、会所飾りや屏風祭など町家を舞台とした祭礼空間の在り方と歴史的な背景を解説いただきました。



8/4開催 まちセン・京安心すまいセンター共同企画

「子どもと一緒に!すまいとまちフェスタ」



昨年10月に開催した「すまいとまちフェスタ」を今年は8月に開催しました。今回は時節がら、地藏盆体験や工作など夏休みの子どもたちが楽しめる内容を企画しました。ワークショップの「おうちバッグ作り」、「ミニミニたみ作り」、「地藏盆体験」、学びの要素を入れた「ミニ講座『京都のまちぐらし』」、コミュニケーションスペースとしての「ママ・パパカフェ」へ多くの親子連れが来場し、ひと・まち交流館京都の地下1階会場は、子どもたちの声でにぎわう1日となりました。



京都市の巨大航空写真の上で記念撮影



ミニミニたみ作り

京都市の「京都をつなぐ無形文化遺産」に選定されている地藏盆は、各町内の行事として行われ、これまで地域コミュニティの活性化、安心安全のまちづくりに大いに役立ってきました。しかし、子どもの減少や生活スタイルの変化、コロナ禍などにより、地区によっては簡略化されたり、開催が困難になったりしてきているという話もあります。最近では地藏盆を残していくために、夏の時期になると京都のあちこちで、地藏盆の体験会が開催されたりしています。当センターもまちづくり活動への関わりとして、今回初めて「地藏盆体験」を企画し、合わせて京都の元学区の成り立ちと町内でのくらし・行事を紹介する「ミニ講座『京都のまちぐらし』」を開催しました。



「ミニ講座:京都のまちぐらし」

大学生や一般のボランティアの方々の支援もいただき、子どもたちには、たくさんのゲームを周遊して楽しんでもらうことができました。



「地藏盆体験」の数珠まわし



子どもの行列ができたバルーンアート

「ママ・パパカフェ」のマスターは当センターの北川専務理事が務めました。来場者には北川マスターの手淹れドリップで提供するコーヒーなどを飲みながら、時折気まぐれに始まるライブ演奏を楽しんでいただきました。北川マスターのカフェは今回のイベントだけでなく、毎月1回金曜日の17:30~20:00にひと・まち交流館京都の地下1階で「The Base-Mental Café」として開店しています。開店日は、当センターのSNSなどでお知らせしています。100円の飲み物とお菓子を手に、誰でも自由に交流できる場となっていますので興味のある方はぜひお越しください。

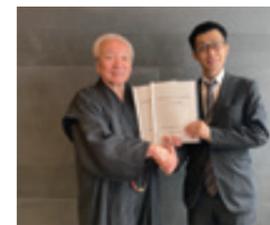


「ママ・パパカフェ」のライブ

防災まちづくり 『有隣学区』の取組 災害時の一時避難に関する協定書が締結されました!

有隣学区は京町家や細路が多く災害時には大きな被害が予想されることから、有隣学区まちづくり委員会では、平成30年に防災まちづくり計画を作成、現在は有隣版避難所運営マニュアルの作成に向けて活動されています。災害時には学区民の他、観光客なども被災者となります。避難所となる元有隣小学校での受け入れ人数に上限があることから、各家庭での備蓄や他の避難先の検討を呼びかけています。この取組の一環として、「THE BLOSSOM KYOTO(運営:JR九州ホテルズ株)」、「相鉄フレッサイン京都清水五条(運営:株相鉄ホテルマネジメント)」の2つの宿泊施設と「大規模自然災害発生時における施設利用等の協力に関する協定」を締結されました。この協定は、福祉避難所が開設

されるまでの間、避難所での生活が難しい要配慮者(集団生活が難しい方や高齢者、妊産婦など)を、一時的にホテルへ受け入れていただくというものです。このような先駆的な取組が今後も広がっていくことが期待されます。



締結の様子



まちづくり委員会の様子